

CITATION 3

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-182415

(43) 公開日 平成10年(1998) 7月 7日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	F I
A 6 1 K	7/48	A 6 1 K
	7/00	7/48
		7/00
		K
		W
審査請求 未請求 請求項の数 2 書面 (全 8 頁)		
(21) 出願番号	特願平8-359688	(71) 出願人 597016864
(22) 出願日	平成 8 年(1996) 12月20日	ラシエル製薬株式会社 岡山県新見市唐松字川原林1749番 6
		(71) 出願人 596164662
		エンテーム株式会社 大阪市北区西天満 6 丁目 1 番 2 号
		(72) 発明者 門田 聡美 福山市鞆町鞆804

(54) 【発明の名称】 化粧料組成物

(57) 【要約】

【目的】 近來、日本女性の多くは食生活、生活環境の変化によって肌にシミ、クスマ、肌荒れが生じやすく、皮膚アレルギー発症の例も多くなっている。このような事情のもとで本発明の目的は、次の如き特定の構成成分よりなる化粧料組成物を提供することによって、問題の解決をはかるものである。

【構成】 本発明における構成成分は、黒砂糖中の色素成分であり化学的にフェニールグルコース類化合物である特定黒砂糖抽出物（黒糖オリゴ）と、シソ科のオウゴンから抽出されたバイカリン及び／又はバイカレインを含む特定オウゴン抽出物、それに蛋白分解酵素及び／又は酵母エキスを一定の比率をもって配合してなる化粧料組成物である。

【特許請求の範囲】

【請求項1】黒砂糖抽出物、オウゴン抽出物、酵素及び／又は酵母を必須成分として含有してなる化粧料組成物。

【請求項2】前記黒砂糖抽出物がフェニールグルコース類化合物である特定黒砂糖抽出物（黒糖オリゴ）であり、前記オウゴン抽出物がオウゴン（コガネバナ：cellularia baicalensis G. O. R. G. I）から抽出されたバйкаリン（baicalin）及び／又はバйкаレイン（baicalein）を含有する特定オウゴン抽出物であり、前記酵素が蛋白分解酵素パパイ（Papain）であり、前記酵母エキスをサッカロミセス（Saccharomyces）を基源とする加水分解酵母エキス（Saccharomyces yeast extract）であることを特長とする請求項1記載の化粧料組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、様々な原因によって生ずる肌のシミやクスマ、肌荒れ等を改善し、アレルギー皮膚炎等の発症抑制に有効な化粧料組成物を提供するものである。

【0002】

【発明の背景】近來、日本では男女平等の意識の広がりと共に、社会生活も変化し、野外スポーツへの女子の参加の機会も多くなっており、それに伴って女性が皮膚のトラブルなど身体的に困窮しきれない状況も発生している。食や生活環境の変化によって、皮膚は傷つきやすく、肌のシミやクスマ、肌荒れ等の発生原因となっている。日本化粧品工業連合会のコスメチックレポートによると、日本人女性の「皮膚のくすみ・肌荒れ」についての意識調査において、80%の人が「肌のくすみ・肌荒れ」を感じたと報告されており、このことは前記の生活環境の変化の影響が現代の日本女性にとっていかに大きいかを物語っているといえる。特に最近では、若い女性のスポーツ熱の高揚により日光紫外線の照射の機会が多く、加えて西洋食偏重の食生活定着に伴う過剰な脂肪分の摂取により体内過酸化脂質が増加するなど、肌のシミやクスマ、肌荒れ、老化、そしてアレルギー発生の原因となる外的環境が増悪化している。このような状況下における化粧料の役割はますます大きくなりつつあり、様々な原因によって起こる肌のシミ、クスマ、肌荒れ、アレルギー発症などの防止、改善に十分答える美肌用化粧料組成物の提供が待たれるところである。

【0003】

【従来の技術】従来、多くの植物成分が美肌、整肌のための化粧料成分として用いられてきた。そのなかに、古くから黒砂糖を利用したいわゆる黒砂糖石鹸がある。しかし、これは製造の段階で黒砂糖中の砂糖成分が析出して、使用する時ざらざらして感じが悪く、またその美肌

効果も必ずしも十分なものではなかった。

【0004】皮膚は皮脂腺より皮脂を、汗腺より汗を常に分泌し、新陳代謝により皮膚角質を常に更新している。しかし過剰なる皮脂分泌は、古い老化角質を長期にわたり皮膚面の汚物として汗腺や肌間に残し、化粧のりを悪くし、時に脂漏症やニキビなどの原因となり肌を損傷する。従来、このような古い老化角質除去のために、サルチル酸、籐蘆、尿素などの角質溶剤乃至は石鹸、アルカリ性物質が用いられてきたが、これらのものは皮膚に対する刺激性が強く、安全性が強く求められる化粧品素材としては適切でないという難点があった。

【0005】また、近來社会生活が硬化するに従って、アトピー性皮膚炎等のアレルギー症を訴える人々が多くなり、特に顔面部に生じたアレルギー性難病症状は年齢における女性を悩ます最大の要因となっている。一般にアレルギーは、アレルギーとの反応で、マスト細胞からSR-S-A、ヒスタミン、ブラディキニンなどの化学伝達物質が放出され、これらの物質が周囲の組織を損傷して生じる生体反応と解されている。従って、これらの化学伝達物質の発生を何らかの時点で抑えればアレルギーの発症は防ぐことができる。これら化学伝達物質のうちヒスタミン、ブラディキニンについてはその発生を抑制する方法が既に公知であるが、SR-S-Aについては未だ十分の抑制効果を期待できるものがなかった。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記の事情に鑑み本発明者は、前記黒砂糖の有効成分は何なのか、そしてそれを化粧料として適切なものとして利用するにはいかにすればよいか、鋭意研究を重ねたところ、黒砂糖のなかの有効成分が黒砂糖中の色素成分であり、化学的にそれがフェニールグルコース類（更に詳しくは3、4-ジメトキシフェニール-0-0-0-グルコースまたは3、4、6-トリメトキシフェニールからなる化合物）であることを見いだした（以降この物質を特定黒砂糖抽出物（黒糖オリゴ）と称する）。同時にこの物質は、例えば次の方法によって黒砂糖から抽出できることを見いだした。

【0007】1. 粗糖（黒砂糖）を水に溶解し、吸着剤で処理する。ここで用いる吸着剤としては、巨大網状構造で、多孔質の集積されたポリスチレン系樹脂吸着剤、例えばアンバーライトXAD-2などが好適である。

2. 吸着剤を水洗いして砂糖分を除き、色素成分だけが吸着されている状態にする。

3. 次に、吸着剤から色素成分を脱離させるが、それにはアルコール濃度20%以上の含水アルコールによって行うのが望ましい。具体的に例えば約20〜30%エタノールで大半の色素成分を溶解し、その後約95%エタノールで完全溶解せしめる。

4. 溶解液を減圧下で蒸発乾固し、残留物を80℃以下で乾燥して、甘味のない白い粉末状として本品を得る。

【0008】本発明において、前記老化角質の除去のためにババインが好適に用いられる。ババインはババイヤの未熟な果より得られる乳液に多く含まれる酵素であり、蛋白、ペプチンを加水分解する。前記老化角質等、皮膚面の汚れる原因は分泌される脂肪、蛋白、糖質によりなるものであるから、これらを分解するに好適な性質を持つ蛋白分解酵素ババインによって完全に分解し皮膚面より消失する。また、ババインは皮膚刺激がなく安全性に優れているので、この面で好適である。

【0009】前記のごとく、アトピー性皮膚炎などのアレルギー症は、体内化学伝達物質が周囲の組織を損傷して生じる生体反応であるが、その化学伝達物質の一つSRS-Aはアラキドン酸代謝物の5-HETEを前駆体とする物質である。従って、この5-HETEの産生を抑制すれば、多くのアトピー性皮膚炎等のアレルギー症を防止することができる。本発明者は鋭意研究の結果、オウゴン（コガネバナ：Scutellaria baicalensis GEORGI）から抽出された、ババリン及び/又はババカイン（baicakain）を含有する抽出物（以降特定オウゴン抽出物と呼ぶ）がその効果を有することを突き止め、この発明に至った。

【00010】

【発明の構成】本発明における構成成分の一つ黒砂糖抽出物は、黒砂糖中の色素成分であり、化学的にフェニールグルコース類化合物、更に詳しくは3, 4-ジメトキシフェニール-O-D-グルコースまたは3, 4, 6-トリメトキシフェニールからなる化合物である特定黒砂糖抽出物（黒糖オリゴ）である。もう一つの構成成分オウゴン抽出物は、シソ科（Labiateae）のオウゴン（コガネバナ：Scutellaria baicalensis GEORGI）から抽出された、ババリン及び/又はババカイン（baicakain）を含有する抽出物（以降特定オウゴン抽出物と呼ぶ）がその効果を有することを突き止め、この発明に至った。

実施例1（特定黒砂糖抽出物、特定オウゴン抽出物、酵母エキスを1:1:1

にて配合したクリーム）

特定黒砂糖抽出物	0.01重量%
特定オウゴン抽出物	0.01
酵母エキス	0.01
ステアリン酸	5.00
グリヤリン	6.0
ポリオキシエチレンモノラウレート	3.0
1, 3-ブチレングリコール	10.00
ラノリン誘導体	2.0
プロピレングリコール	10.0
密ロウ	3.0
セタノール	6.0
スクワラン	8.0
香料	0.5
精製水	46.47

【00015】

実施例2（特定黒砂糖抽出物、特定オウゴン抽出物、酵母エキスを1:1:1にて配合したクリーム）

*lensis GEORGI）から抽出されたフラボノ誘導体のババカイン（baicalin）及び/又はババカレイン（baicalein）を含有する特定オウゴン抽出物である。更に他の構成成分である酵素は、ババイヤの未熟な果実中の乳液より得られた一種のプロテアーゼ蛋白分解酵素であり、酵母エキスは、サッカロミセス（Saccharomyces）に属する酵母から自己消化又は加水分解によって得られた液を濃縮・乾燥した酵母エキス（Saccharomyces yeast extract）である。

【00011】本発明においては、これら3種乃至4種の構成成分が化粧料組成物として、その構成比がおおよそ特定黒砂糖抽出物1、特定オウゴン抽出物1、ババイン0.5、酵母エキス0.5、又はババイン、酵母エキスについてはそのいずれか一方が1、他は0の割合で、それぞれ0.0001〜5%、好ましくは0.001〜1.00%の配合率をもって化粧料に配合される。また、本発明において適用する化粧料としては、クリーム、化粧水、乳液のほか化粧料としての剤形如何を問わない。

【00012】

【発明の効果】このようにして得られた本発明の化粧料組成物は、肌のシミ・クスマ、肌荒れ、に対して顕著な改善の効果を示すとともに、アレルギー発症抑制の効果をもつ。

【00013】

【実施例】以下、本発明の化粧料組成物が化粧料クリームに用いられた場合の実施例を次に示す。ただし、これらは単に例示であり、この発明がこれらによって限定されるものではない。

【00014】

特定黒糖抽出物	0.01重量%
特定オウゴン抽出物	0.01
酵素(αアミラーゼ)	0.01
ステアリン酸	5.00
グリセリン	6.0
ポリオキシエチレンモノラウレート	3.0
1,3-ブチレンジグリコール	10.00
ラノリン誘導体	2.0
プロピレングリコール	10.0
密口ウ	3.0
セタノール	6.0
スクワラン	8.0
香料	0.5
精製水	46.47

【00016】(実施例の使用効果) 日常、肌にシミ、クスマ、肌荒れのある女性20名を選んでこのクリームを一日2回朝と就寝前に使用してもらい、1ヶ月後にその効果について調査した。調査結果を、表1及び表2に示す。

【0017】評価基準は症状の程度に応じて次の5段階に分け、改善度は使用前後の評価段階の上昇の程度により判断し、表3及び表4に示した。

【0018】(評価基準)

シミ

5. 顔にはっきりとしたシミが見えその色は濃い。
4. 顔にはっきりとしたシミが見えるが、化粧すれば目立たない。

3. 顔にシミがあるが、輪郭はそれほどはっきりしない。

2. 顔にシミがあるがよく見えないとわからない。

1. 顔のシミはほとんど分からない。

【0019】クスマ

5. 肌や顔全体に暗くクスマが広がってはっきりと見える。

4. 肌や顔にハリがなく、ところどころがくぼんで暗くクスマがある。

3. 顔、特に目の周りにクスマが残っているのが気がかりな状態。

2. 目の周りや顔のところどころにクスマがあるが、よく見えないと分からない。

1. 肌や顔にクスマはほとんど見えない。

【0020】肌荒れ

5. 皮膚の色がくらくらしたように見え化粧がのらない。

4. 皮膚につやがなく化粧のりもあまりよくない。

3. 皮膚のつやは特に良くも悪くもない。

2. 皮膚の色つやも化粧のりもよくなってきた。

1. 皮膚にはりがみえ、顔の色が明るくなり化粧のりもよく、よくのびる。

【0021】

【試験例】本発明のアレルギー発症抑制剤に対する効果を明確にするため、次にその試験例を記載し、その試験結果を表5、乃至表8に示す。

(試験例) ウィスター系マウスを使用し、このラット

腹腔内多核白血球をHEPS-生食細胞液(pH7、

4)で洗浄し、同細胞液に懸濁、超音波処理を行ったもの

をアラキドン酸代謝の試薬として用いた。この血小

板ボモジネイトとバシカルリン(baicalin)とのサンプルを

それぞれ表に示すように種々に調整し、37℃5分間保

温した。その後(1-14℃)アラキドン酸(0.05

μCi)を加え、5分間インキュベイトした。終了後、

反応を酢酸で止め(pH3)、アラキドン酸代謝産物を

酢酸エチルで抽出し、シリカゲル薄層クロマトグラフィー

(TLC)で分離して定量した。(展開液:石油エー

テル:エーテル:酢酸=50:50:1、V/V、TLC

はメルク5748)。放射活性物質はオートラジオグ

ラフィーで検出し、そのスポットを切り取り、放射活性

を液体シンチレーションカウンターで定量した。なお、

表5、乃至表6に示す12-ヒドロキシヘプタデカト

リエン酸(HHT)はシクロオキシゲナーゼを経て代謝

されるが、他の一つはリボキシゲナーゼを経て代謝され

る5-ヒドロキシエイコサテトラエン酸(5-HETE)

である。HHTは既知のHHTとの比較により測定

され、5-HETEはGC-MSにより測定した。

【0022】

【実施例及び試験例における発明の効果】以上の実施例

及び試験例でも明らかに、本発明による特定黒糖

抽出物と特定オウゴン抽出物、酵素及び/又は酵母エ

キスを必須成分として配合した化粧品組成物は、肌のシ

ミやクスマ、肌荒れ等の改善に顕著な効果をもたらす

とともに、アレルギー発症抑制の効果を有するものである。

【表1】

(実施例1の試験結果)

No.	年 令	シ ミ	ク スミ	観察値	副作用
1	32		4 → 1	3 → 2	認めず
2	26	5 → 4			〃
3	35	4 → 2		4 → 2	〃
4	25		5 → 3	5 → 2	〃
5	26	4 → 2		4 → 3	〃
6	25		6 → 2		〃
7	26		4 → 3	3 → 1	〃
8	33	4 → 1			〃
9	40		5 → 4		〃
10	39	5 → 3		5 → 2	〃
11	33		4 → 4		〃
12	27	5 → 2		5 → 2	〃
13	52	5 → 5			〃
14	23		4 → 1	3 → 1	〃
15	37		5 → 2	4 → 2	〃
16	31	4 → 2			〃
17	24		4 → 2		〃
18	39	4 → 2		4 → 2	〃
19	25	5 → 3			〃
20	32		4 → 2		〃

〔表 2〕

(実施例2の試験結果)

no.	年令	シミ	タシミ	肌荒れ	副作用
1	29	4 → 3		4 → 3	認めず
2	31	5 → 4			"
3	28		5 → 3	4 → 2	"
4	35		4 → 1		"
5	33	4 → 2			"
6	27		5 → 2	5 → 2	"
7	36	3 → 5		3 → 1	"
8	24	4 → 1			"
9	32		5 → 4		"
10	38	5 → 3		4 → 2	"
11	23		4 → 4		"
12	28	5 → 2		5 → 2	"
13	40		4 → 2		"
14	35	4 → 2		3 → 1	"
15	27		5 → 2	4 → 2	"
16	30		4 → 1		"
17	24		4 → 2	5 → 2	"
18	39	4 → 2			"
19	25	5 → 3		3 → 2	"
20	32		4 → 2		"

【表 3】

(実施例1による鼠のシミ、クスマ、肌荒れの改善率)

		シミ	クスマ	肌荒れ
有効部	著効	2例	4例	4例
	有効	0例	3例	4例
無効部	やや有効	1例	2例	2例
	無効	1例	1例	0例
改特中		80%	70%	80%

【表 4】

(実施例2による鼠のシミ、クスマ、肌荒れの改善率)

		シミ	クスマ	肌荒れ
有効部	著効	2例	4例	3例
	有効	0例	4例	5例
無効部	やや有効	1例	1例	2例
	無効	1例	1例	0例
改特中		80%	80%	80%

著効：評価が3段階以上上昇したもの。

有効：評価が2段階上昇したもの。

やや有効：評価が1段階上昇したもの。

無効：評価が全く上昇しなかったもの。

改善率：著効と有効の合計（有効部）が全体に占める割合。

【表 5】

		生成物（比較例との割合％）	
		HET	6-HETE
バイ カ リ ン	***	100.0±0.0	100.0±0.0
	-7	94.0±0.0	86.0±0.0
	-6	90.0±0.0	68.0±4.6
	-5	83.8±2.7	69.0±0.0
	-4	30.0±9.0	37.5±4.6
	-3	19.0±4.0	32.0±4.0

* バイカレインの単位はモル×10の露指数

** 温度0の比較例

10

20

		生成物（比較例との割合％）	
		HET	6-HETE
バイ カ リ ン	***	100.0±0.0	100.0±0.0
	-7	95.5±2.6	81.8±4.7
	-6	91.5±5.0	71.0±1.6
	-5	92.8±12.3	53.5±5.0
	-4	23.8±4.8	44.0±5.0
	-3	19.5±3.0	36.0±5.0

* バイカリンの単位は1モル×10の露指数

** 温度0の比較例

【表 6】

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-182415

(43)Date of publication of application : 07.07.1998

(51)Int.Cl.

A61K 7/48

A61K 7/00

(21)Application number : 08-359698

(71)Applicant : RASHIERU SEIYAKU KK
ENCHIIMU KK

(22)Date of filing : 20.12.1996

(72)Inventor : KADOTA AKIMI

(54) COSMETIC COMPOSITION

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a cosmetic composition capable of improving spots, dullness and roughness of the skin and useful for inhibiting onsets of allergic skin inflammations, etc., by blending a raw sugar-extract with a *Scutellariae radix*-extract, an enzyme and/or a yeast extract as essential ingredients.

SOLUTION: This cosmetic composition is obtained by adding 0.0001-5% of a mixture consisting of a raw sugar-extract (3,4-dimethoxyphenyl-O-D-glucose, etc.), a *Scutellariae radix*-extract (containing baicaline and/or baicalein, which are flavone derivatives extracted from *Scutellaria baicalensis* GEORGI of Labiatae), an enzyme (a kind of protease obtained from papaya) and a yeast extract (concentrated and dried product of a solution obtained from a *Saccharomyces* yeast) in a compositional ratio of 1:1:0.5:0.5, 1:1:1:0 or 1:1:0:1.